

自己紹介：和田 憲明 (Wada Noriaki)



2006年に社内でアジャイルコミュニティを作り普及活動を実施してきた。2011年から現在まで技術支援部門でアジャイル支援活動に従事している。社外の様々なアジャイルコミュニティにも参加し、日本でのアジャイルの潮流を長年肌で感じてきた。

【転機】38歳からジャグリングを始めた。その面白さを多くの人に伝えてきた。アジャイル・改善・ジャグリングには共通点が多いと思っている。「ジャグリングは見るよりやる方が100倍面白いですよ」3ボール・カスケードから始めよう！（Youtube に入門動画多数あり）

<主な社外活動>

- 情報処理推進機構（IPA）アジャイルWGメンバ（2017年～現在）
- アジャイルジャパン実行委員（2010年～2020年、2015～2017年は実行委員長）
- JASPICアジャイル分科会（2016年～現在）

1) 変わったこと/変わらなかったことは何か？

変わったこと

- ITパワー（性能、新技術）
- ビジネスの競争相手（海外、異業種）

変わらなかったこと

- マネジメント（方法、対象）
- 組織構造

2) これから変えたいものは何か？

技術駆動にする

問い：圧倒的なITパワーをビジネスシーンで活用できているだろうか？

- ・基本性能の向上：最新のITパワー（10年前と比べて1000倍、20年前からは100万倍？）を活用したワークスタイルになっているだろうか？
- ・攻め方の向上：もしシステムのリリース頻度が毎月1回→毎日10回（約300倍）にできるなら、ビジネスをどう変えるか？

2) これから変えたいものは何か？

ヒント：エンジニアにしかわからないことがある

ITパワーを武器に、変化を味方にする「エンジニア・ファースト・マネジメント」への転換

誰かが意思決定してから仕事をエンジニアに渡すのではなく、エンジニアが根幹の意思決定に関わる。

ソフトウェアの世界ではエンジニア＝プログラマー。XX as Code が当たり前になりつつある。

プログラマーが経営に参画しやすいマネジメントに転換する必要がある。

→ これは経営者／管理者の役目

3) 変革に役立つ能力とは何だろうか？

我々はそれを持っているだろうか、足りないものは何か？

適応能力

- お互いをリスペクトすること
- その領域のプロフェッショナルとして、変えるものと変えてはいけないものを明らかにする

足りないもの？

- 足りないものは**ない**。我々は皆、適応能力を元々持っているはず。
- 1980-1990年代はウォーターフォールに対して企業の枠を越えて議論し、適応している。
- 個人では、プライベートも合わせると、皆、様々なことに適応してきたでしょう？

→ 勇気（まずボールを1つ投げ始めよう！）